

行政視察報告書

平成29年8月

総務文教常任委員会

視察先及び目的

佐用町:協働のまちづくりについて

- ・まちづくり協議会条例について
- ・佐用町まちづくり推進会議について
- ・学校等跡地施設利活用について

宍粟市:地域公共交通総合連携計画と公共交通再編計画について

視察実施日

平成 29 年 8 月 22 日(火) 8:00~17:00

参加委員

長谷川幹雄(委員長) 藤浦 巧(副委員長) 山本 道廣
長谷川勝己 安田 朗 大畑一千代

【概要】<佐用町>

佐用町は、人口 17,505 人、世帯数 6,902 世帯(平成 28 年 4 月現在)面積は 307.44 km²の中山間地域で、林野率が 81.0%という地域である。平成 17 年 10 月 1 日に旧佐用町、上月町、三日月町、南光町の 4 町が合併して佐用町が誕生した。

【視察目的】

協働のまちづくりについて

- ・まちづくり協議会条例について
- ・佐用町まちづくり推進会議について
- ・学校等跡地施設利活用について

【所感】

各委員の皆様の意見の多くが取り組みに対しては、概ね評価をされています。協議会のセンター長や、派遣職員の取り組み次第で大きく左右されることに関しては、スキルが必要で、日々勉強であるとの職員の方の話であったが、方向性を決める作業のため責任重大であると思う。

学校等跡地の利活用に関しても、積極的な営業活動により企業や団体等の誘致に成功しているようであるが、施設の利用に関して、住民の避難所等であったりする関係で、施設利用が限られる中で運営している。全てが順調であるとは言えない部分もあり、今後の課題も多くあるとのことで、しっかり見守っていく必要があると感じた。

加東市に当てはめて考えると、かなりの温度差があるように思われた。

今後、我が市に於いても人口減少・少子高齢化等、避けて通れない道であると思われるが、佐用町はもっと深刻な状況の中で取り組みをされている。加東市に於いても早急なる適正化・施策の打ち出しが必要である、との各委員の感想であると思う。

【概要】〈宍粟市〉

平成 17 年 4 月 1 日に旧 4 町が合併して宍粟市になり、人口 39,050 人、世帯数 14,541 世帯（平成 29 年 4 月 1 日現在）面積は、658.54 km²で林野率が 90%以上である。

【視察目的】

- ・ 地域公共交通総合連携計画と公共交通再編計画について

【所感】

広大な地域をデマンドバスや自主運行バス、市が直営のコミュニティバスと路線バスで運営をされていたが、利用客減少などから住民の要求に応えるように運営方法を変更し、全て路線バスに統一し、全ての住民の要求とまではいかないが、おおむね要求に応える取り組みをされていることに感心するとともに、これだけ低額な（乗り継ぎをしても 200 円）運賃で運営することに踏み切った。学生さんの乗車率が向上し、住民の買い物や病院等の移動に広く活用されているようであり、低額 200 円の運賃効果大と思われる。又月額 5,000 円のフリー乗車券も発行して乗車率向上に努力されております。しかし、課題も多くあります。増え続ける運営費、小型バス路線の乗車率減少に今後どう取り組むのか、土日の運行やフリー乗降ゾーンの導入などを検討しているようであり、循環型の社会実験運行を行っているとのことでした。

加東市に於いても、地域公共交通網形成計画が打ち出されこれから取り組みがなされると思うが、地域公共交通網形成計画をさらに推進するべきである